

Ⅱ 糖価調整制度の役割と仕組み



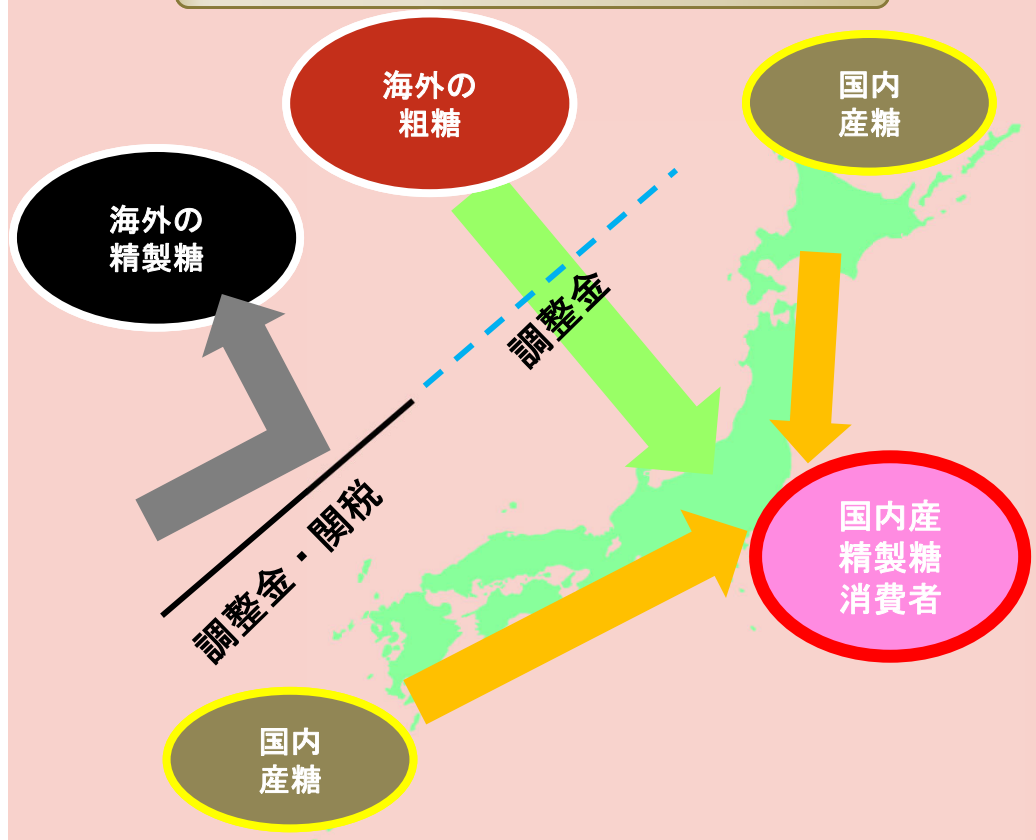
29 制度の全体像 【砂糖の場合】

○糖価調整制度は、最終製品である精製糖の海外からの流入を高い水準の国境措置を通じて阻止する中で、沖縄・鹿児島・北海道の甘味資源作物や、これを原料とする国内産糖の製造事業、更に国内産糖と輸入粗糖を原料とする精製糖製造事業が成り立つようにすることで、砂糖の安定供給を確保していく仕組み。

○具体的には、

- ①輸入精製糖には高い水準の関税・調整金を課す。このため、ほとんど輸入されない。
- ②（独）農畜産業振興機構（A L I C）は、粗糖を輸入する精製糖企業から調整金を徴収。これにより、輸入粗糖の価格が引き上げ。
- ③A L I Cは、甘味資源作物生産者・国内産糖製造事業者に対し、交付金を交付。これにより、国内産糖の価格が引き下げ。
- ④価格が引き上げられた輸入粗糖と引き下げられた国内産糖を原料として、精製糖企業は国内で精製糖を製造し、消費者に供給。

輸入精製糖、輸入粗糖、国内産糖の全体像

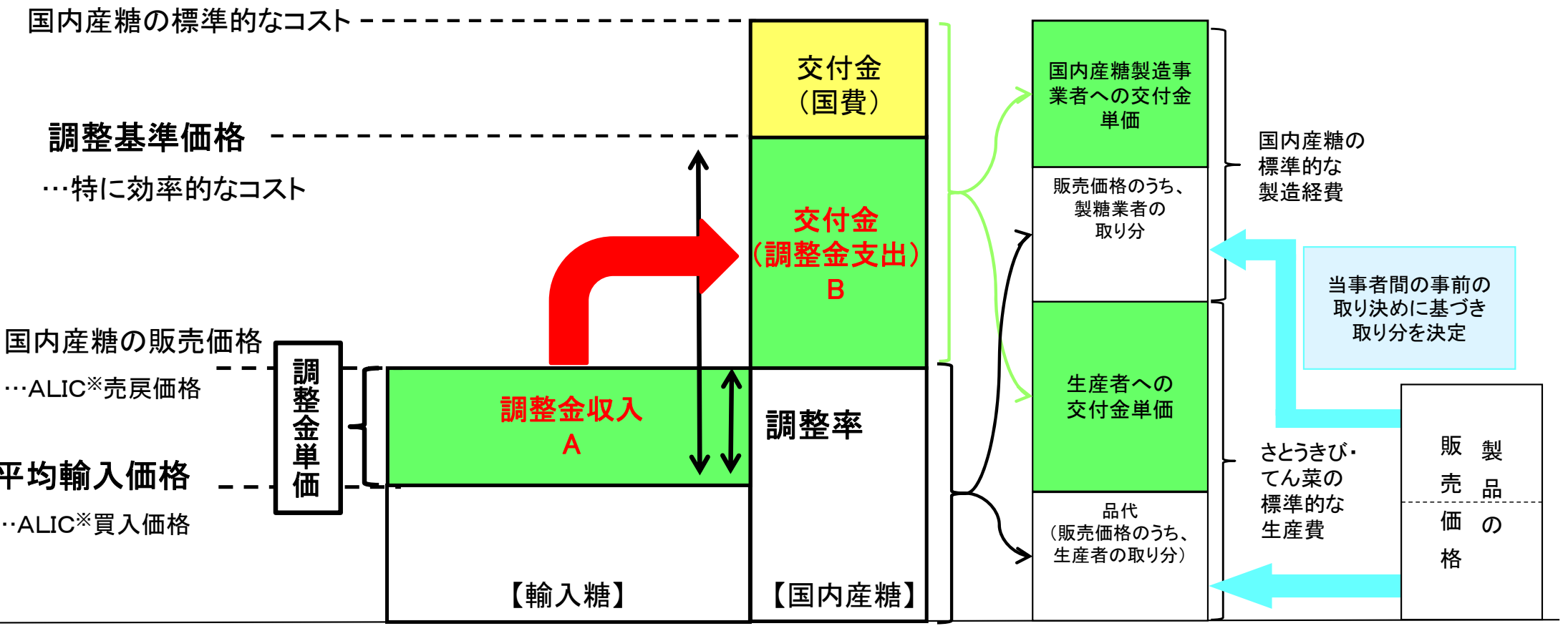


輸入精製糖、輸入粗糖、国内産糖の価格差の概念図



30 糖価調整制度の仕組み 【砂糖の場合】

- 砂糖については、海外から輸入される原料糖と国内のさとうきび・てん菜を原料とする国内産の原料糖に大幅な内外価格差が生じる中で、高い水準の国境措置を通じて、最終製品である精製糖の流入を阻止するとともに、原料糖については、これを輸入する精製糖企業から調整金を徴収し、この収入を財源として国内産糖の生産者・工場に交付金を交付し、価格調整を行っている。
- 調整金の単価は、調整基準価格（特に効率的なコストによる国内産糖の製造経費）と平均輸入価格（原料糖の輸入価格）の差額に、調整率（※）を乗じて算出される。
 （※）調整率：砂糖の推定総供給数量に占める国内産糖の推定供給数量の割合を限度として決定。
- 交付金の単価は、国内産糖の標準的なコストと国内産糖の販売価格の差額により算出される。

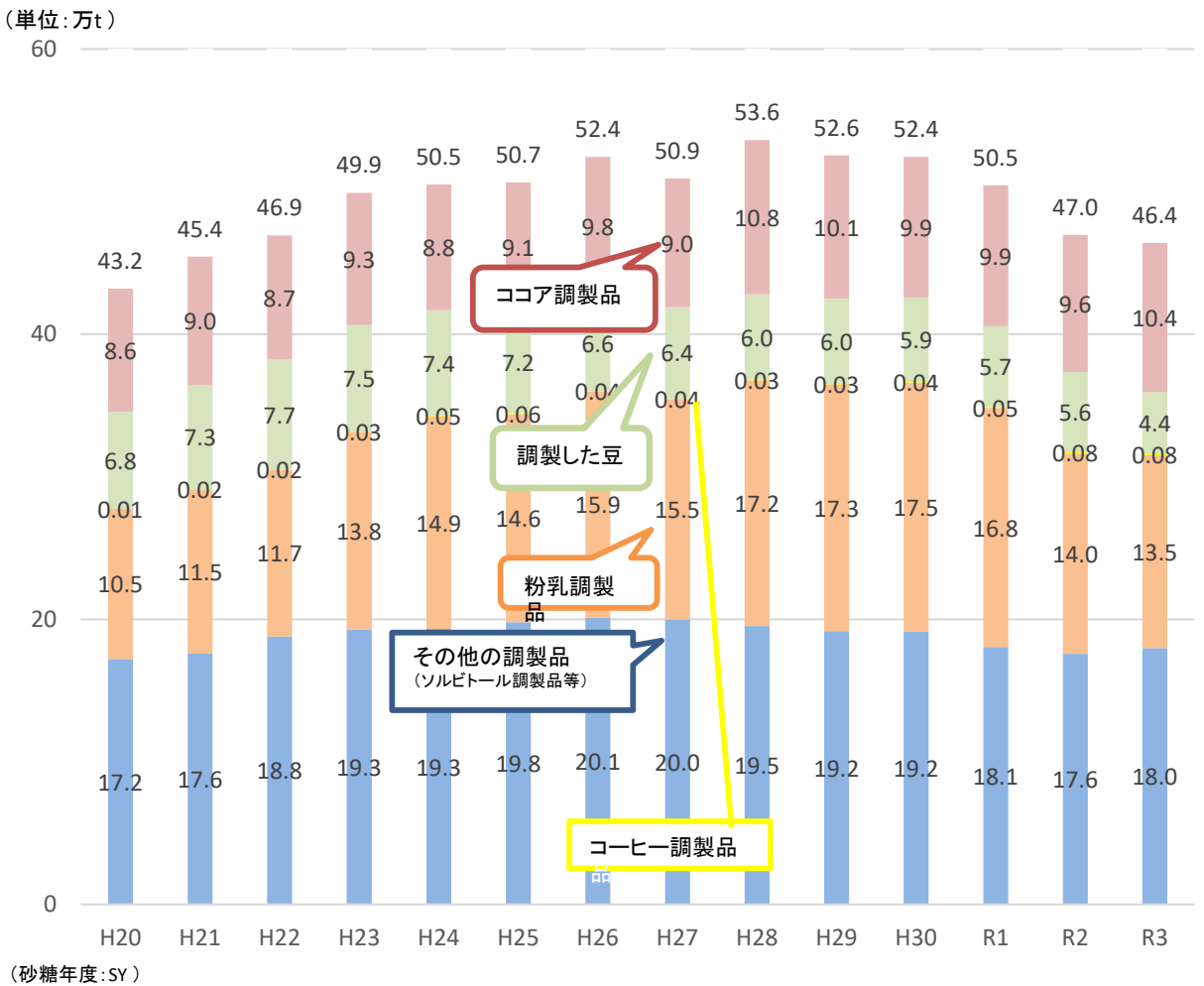
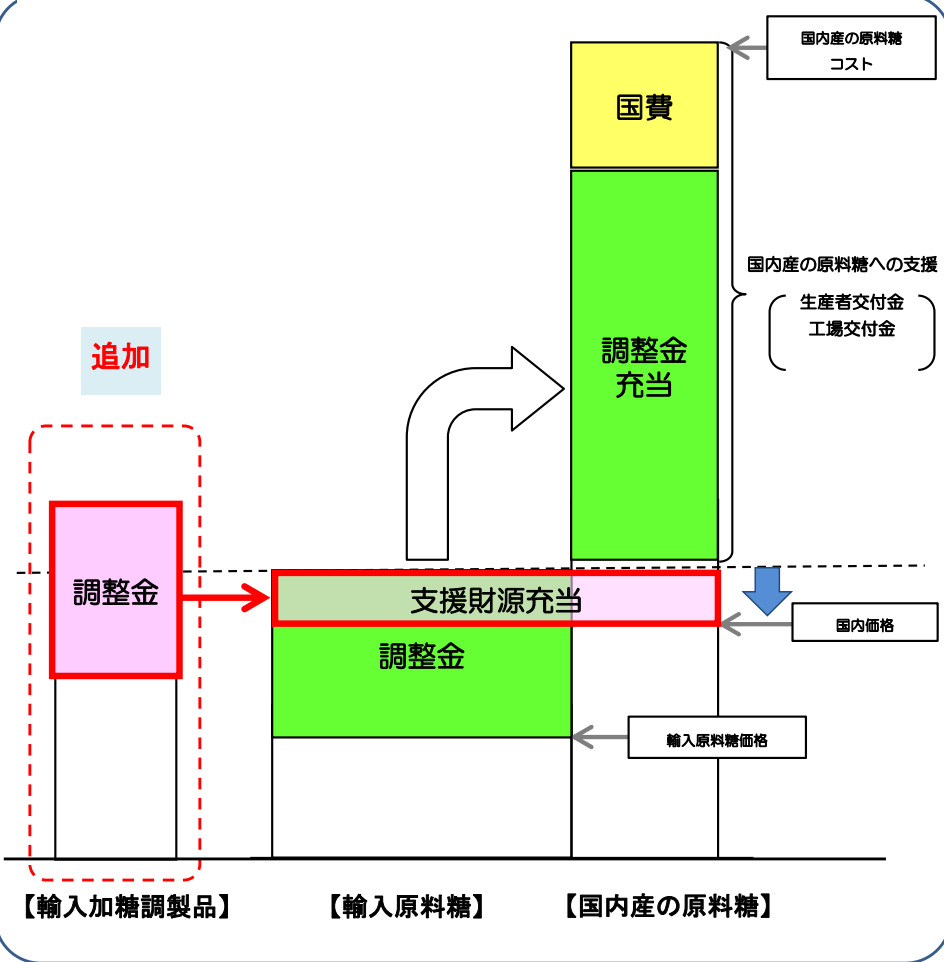


※ALIC＝農畜産業振興機構

31 加糖調製品の調整金徴収制度と輸入動向

- 平成30年12月30日(TPP11協定の発効日)から施行された改正糖価調整法に基づき、加糖調製品からの調整金の徴収がスタート。これを国内支援に充当すること等を通じて国産の砂糖の競争力を強化。
- 加糖調製品の輸入量は平成20年以降、一貫して上昇傾向にあったが、近年は減少傾向に転じており、令和3砂糖年度は46.4万トンまで減少。

【TPP11の発効後】

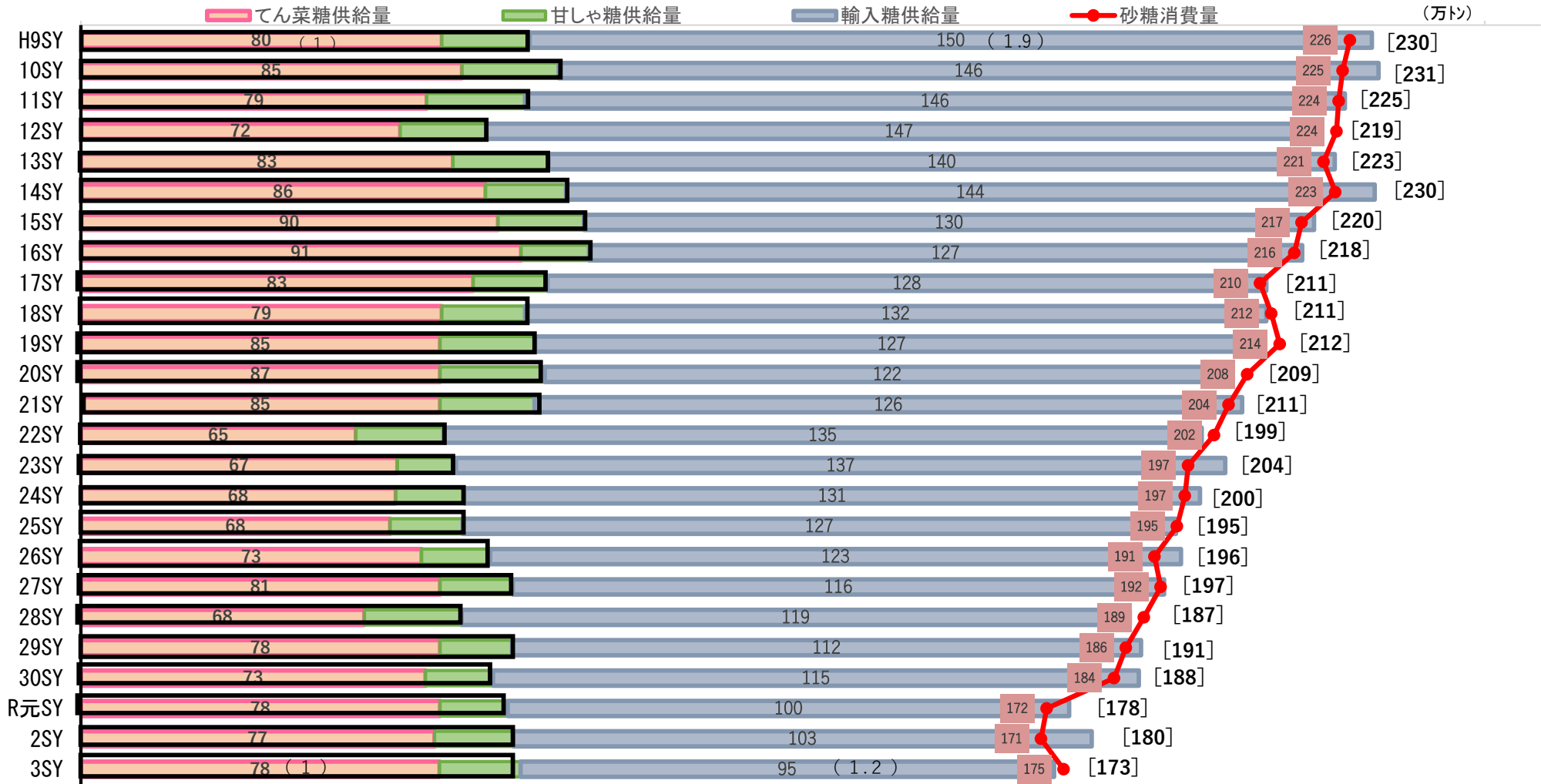


32 国内産糖・輸入糖供給量等の推移

○平成9砂糖年度（SY）は、国内の砂糖消費量は約230万トンで、国内産糖と輸入糖が約1：1.9の割合であり、砂糖勘定の収支が均衡していた時期。

○しかし、砂糖消費量が年々減少して令和3砂糖年度は180万トンを割り込み、175万トンまで減少し、輸入糖は95万トンまで減少。国内産糖と輸入糖の割合は約1：1.2となり、両者のシェア差が縮小。

○ 国内産糖・輸入糖供給量等の推移

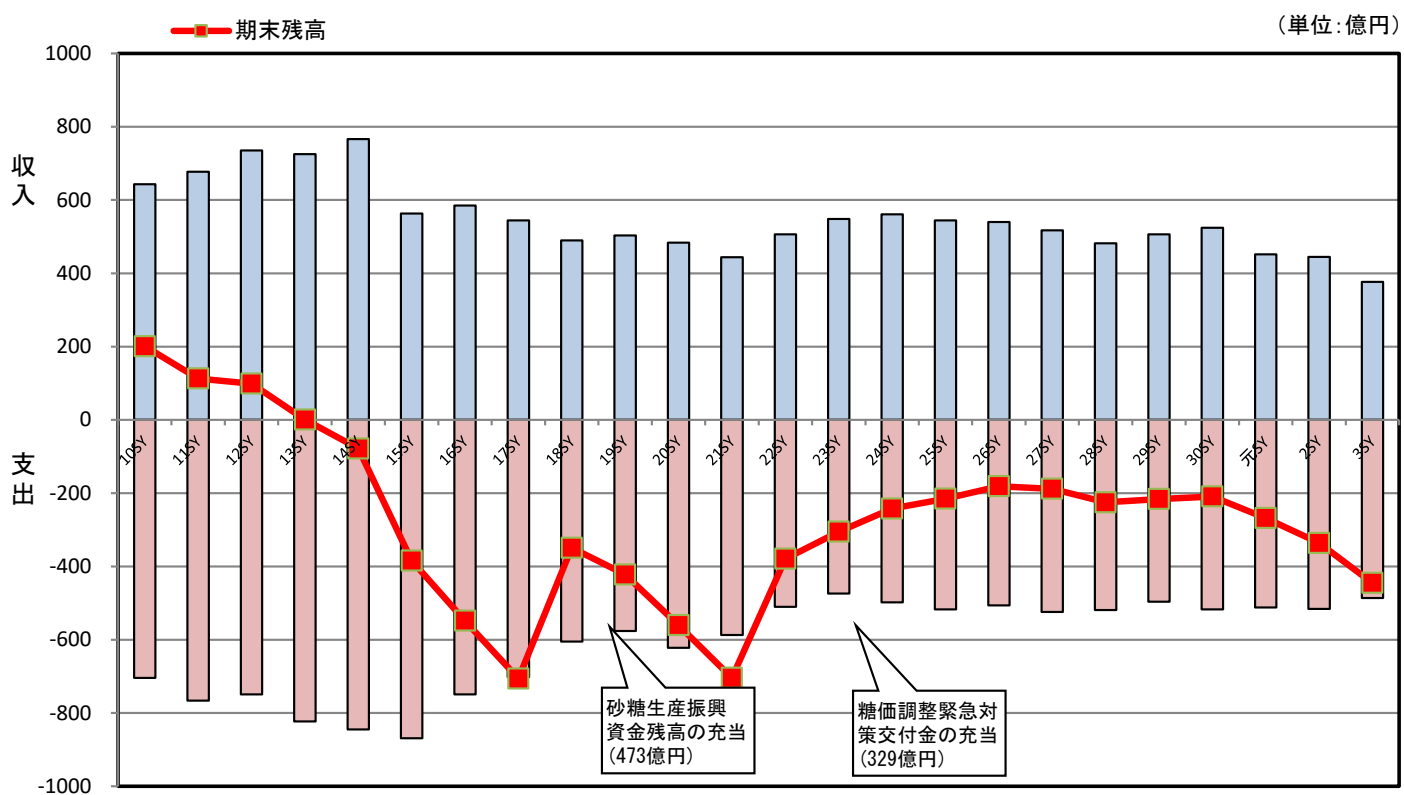


注1：「砂糖消費量」には、加糖調製品に含まれる砂糖は含まない。
 注2：[]内は国内産糖供給量及び輸入糖供給量の合計。
 注3：四捨五入の関係で合計額が一致しない場合がある。

33 ALIC砂糖勘定の状況

- 令和2砂糖年度の収支は、砂糖消費量の減少に伴う輸入糖の減少による調整金収入の減少等が影響し、単年度収支は▲71億円の赤字となり、累積差損は▲336億円。
- 令和3砂糖年度については、国内産糖の堅調な生産による輸入糖の減少に加え、国際糖価の上昇や円安の影響により、調整金収入が大きく減少し、単年度収支は▲109億円の赤字となり、累積差損は▲445億円となった。

○ 砂糖の調整金収支の推移



注1) 砂糖年度 (SY) とは、毎年10月1日～翌年9月末までの期間をいう。
 注2) 四捨五入の関係で前年度期末残高と単年度収支の合計額が期末残高と一致しない場合がある。
 注3) 18SYに砂糖生産振興資金473億円を充当、22SYに糖価調整緊急対策交付金329億円を充当。
 注4) 単年度収支には、砂糖生産振興資金及び糖価調整緊急対策交付金の充当分を含まない。
 注5) 19砂糖年度以降の各年度については、当該年度のてん菜に係る国庫納付の確定額を反映。

○ 砂糖調整金の期末残高推移

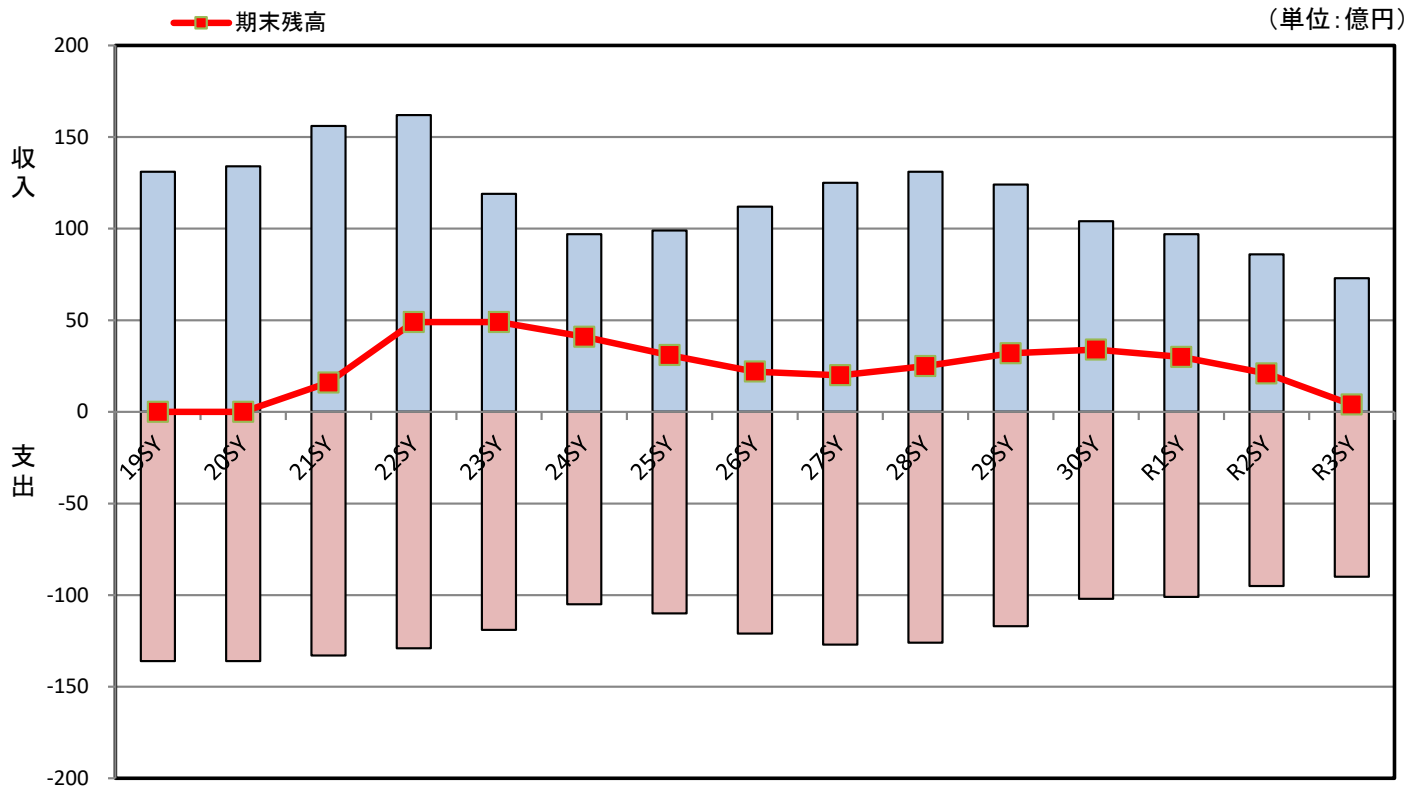
砂糖年度(SY)	単年度収支	期末残高
12	▲ 14	99
13	▲ 98	1
14	▲ 79	▲ 78
15	▲ 306	▲ 384
16	▲ 164	▲ 548
17	▲ 158	▲ 706
18	▲ 115	▲ 349
19	▲ 73	▲ 422
20	▲ 138	▲ 560
21	▲ 143	▲ 704
22	▲ 4	▲ 379
23	74	▲ 305
24	63	▲ 242
25	27	▲ 215
26	34	▲ 181
27	▲ 7	▲ 188
28	▲ 37	▲ 225
29	10	▲ 216
30	7	▲ 209
R元	▲56	▲265
R2	▲ 71	▲ 336
R3	▲ 109	▲ 445

34 ALICでん粉勘定の状況

○令和2でん粉年度の収支は、とうもろこしの国際相場上昇等による調整金収入の減少による調整金収入の減少等が影響し、単年度収支は▲9億円の赤字となった。

○令和3でん粉年度のでん粉調整金の収支については、とうもろこしの国際相場の更なる上昇や円安による調整金収入の減少により、17億円の赤字となった。これにより累積収支（期末残高）は4億円の黒字。

○ でん粉の調整金収支の推移



○ でん粉の調整金の期末残高推移

(単位: 億円)

でん粉年度(SY)	単年度収支	期末残高
19	▲5	▲5
20	▲2	▲7
21	23	16
22	33	49
23	0	49
24	▲8	41
25	▲10	31
26	▲9	22
27	▲2	20
28	5	25
29	7	32
30	2	34
R元	▲4	30
R2	▲9	21
R3	▲17	4

注1) でん粉年度(SY)とは、毎年10月1日～翌年9月末までの期間をいう。
 注2) 四捨五入の関係で前年度期末残高と単年度収支の合計額が期末残高と一致しない場合がある。
 注3) 19砂糖年度以降の各年度については、当該年度のばれいしよに係る国庫納付の確定額を反映。